

苫小牧市長 岩倉博文 様

苫小牧腎友会要望書

苫小牧市におかれましては、日頃より苫小牧腎友会の活動  
にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

我々、人工透析患者が、より人間らしく生きる環境を整える  
ために、4つの項目を請願します。市長さまと関係者の皆さ  
ま、市民の皆さまに、更なるご理解を得るための努力をして参  
りたいと存じますので、検討のほど、宜しくお願い致します。

## 要望項目

① 2014年度から始まりました、自家用車による年額9,000円の支給を受けられる通院補助は、透析患者の通院の多様性や実態に対応しているものであり、本制度を維持して頂いている事について、心より感謝申し上げます。苫小牧市福祉のまちづくり条例の第13条にて「市は、福祉のまちづくりに関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講じるよう努めるものとする。」とあります。最近では、世界情勢の不安定化等によりガソリンの価格が高騰し、レギュラーガソリンが160円台で推移していることをふまえ、自家用車の通院補助額の適正化について再度、検討頂けますよう、お願い申し上げます。

② 臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では現在、570人の腎臓移植希望者（臓器移植ネットワークの公表データ）が待機しています。今年に入ってから、10月までに3件（移植数は4個）の腎臓移植手術が実施されました。北海道での移植件数の推移をみると、移植医療は後退しているように思えます。このような状況が長く続いたことで、移

植実施までの待機年数が平均 20 年以上とたいへん長くなりました。苫小牧腎友会では3年ぶりに港まつりにて、保険証や免許証の裏に意思表示の記載をお願いする声掛け活動を行なうことができました。できるだけ多くの方に臓器移植の現状を知って頂くために、市が情報を発信する媒体において移植の現状について広報して頂けますよう、検討のほど、お願い致します。

③ 苫小牧市の福祉のまちづくり条例第 11 条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後も本活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。

私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、1回の透析につき1人あたり 120L と、大量のきれいな水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。一昨年の要望書提出の際に、市内の透析施設の代表者による会議が行われたと聞きました。今年度

の代表者会議の開催状況や、会議の結果等について情報公開をして頂けますよう、お願い致します。

④ 8月31日に市民会館にて、iPS細胞研究の成果を市民へ啓蒙するための講演会を計画、実施して頂いたことについて、会を代表して、心から感謝申し上げます。当日は、あいにくの雨天でしたが、200名を超える多くの方が参加し、iPS細胞研究の最新の成果について理解を深めることができたのではないかと考えております。苫小牧腎友会としては、今後も京都大学のiPS細胞研究を応援し続ける所存です。苫小牧市におかれましても、たとえば、京都大学iPS細胞研究所の寄付金講座を広報誌等で告知して頂く等、研究活動を下支えするような広報活動をお願いしたく存じます。

令和4年12月7日

苫小牧腎友会 会長 工藤彰洋